

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立深谷高等学校)

目指す学校像	学力の向上、部活動の振興に重点を置き、地域から信頼される進学校を目指す。 文武両道の精神に基づき心豊かな生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 確かな学力の定着を目指し、学習指導の工夫と主体的学習態度の育成を図る。 2 生徒一人一人の進路実現を叶える支援の充実を図る。 3 基本的生活習慣の確立を図り、部活動、学校行事の活性化を支援し、豊かな心を育む。 4 保護者・地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価							
年度目標			年度評価(2月1日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 入学してくる生徒の学力や学習意欲に幅がある。また、学校行事や部活動等にも意欲的に参加する生徒とそうでない生徒が混在している。 【課題】 個に応じた学習指導と各取組の工夫により、学習意欲と基礎学力を向上させ、自己肯定感を高める必要がある。	・授業改善に努め学習の意欲を喚起するとともに、学力の定着・向上と学ぶ姿勢を身に付けさせる。	①習熟度別授業、少人数授業を生かし基礎基本の定着を図り進学や就職に対応できる学力の向上を図る。 ②協調学習等による授業改善から「主体的・対話的で深い学び」による「学びの改革」を着実に推進する。 ③教員相互の授業観察、授業研究を通じて授業の工夫・改善による「わかる授業」を研究し学力の向上を目指す。 ④保護者と連携し、自主的な「家庭学習」の向上を図る。 ⑤高大連携を継続し、出前授業や大学での実習等により生徒の興味・関心を喚起し、学習意欲を喚起する。	①②③ ・成績不振者数の減少、成績優良者数が増加したか。 ・授業理解度、満足度の向上 ③公開授業を実施できたか。教員間で複数回の授業を見学できたか。 ④家庭学習時間が向上したか。 ⑤大学による出前授業、大学での実習の参加者が増えたか。	主体的に学ぶ姿勢を目指し、授業観察、授業研究、保護者・大学との連携等の取組により、少しずつ成果が出てきた。 ①②③・成績(1、2学期合計人数) 不振者数:H28:86人→H29:63人 優良者数:H28:206人→H29:206人 ・授業満足度:肯定88% ③公開授業:16日間(保護者、教員間、中学生等) ④家庭学習をしている割合 H28:45%→H29:51% ⑤女子栄養大学との教育連携協定を締結した ⑤大学の实習等参加者数 H28:20名→H29:27名	A	引き続き、基礎学力の定着や主体的に学習に取り組む意識の確立が課題である。改善策は、授業改善や資格取得の働きかけ、保護者・大学等との連携が必要である。
2	【現状】 進学者の多くが指定校推薦及びAO入試等での進学である。 【課題】 生徒の進路意識を高め、一般入試でも合格できる実力を養成する必要がある	・計画的な進路指導により、生徒全員の進路実現を目指す。	①3年間を見通した計画的・組織的な進路指導を実施する。 ②各種ガイダンスや講演会に保護者を巻き込み家庭の協力と理解を深める。 ③特進クラスのニーズを把握するために生徒との意見交換会を実施し、柔軟な運営を行う。 ④平日補習や土曜補習の充実、外部模擬試験の実施や進学希望者全員のオープンキャンパス参加により意識を向上させる。 ⑤ハローワークなどの外部機関と連携し企業の求人開拓を積極的に行う他、地域の支援を受けて、就職希望者全員の内定を目指す。	①計画的・組織的な進路指導ができたか。 ①②生徒・保護者の学校の進路指導の取組の満足度。 ③特進クラス生徒の意見をどう改善に繋がったか。 ④補習への参加率が向上したか。外部模擬試験やオープンキャンパス参加者数が増えたか。 ⑤学校幹旋希望者の内定100%を達成できたか。	計画的・組織的な進路指導により、ほぼ全生徒の進路決定が実現できた。 ①各学年で計画的に進路指導を実施した。 ①進路決定者率:90.3%(12/22現在) ①②進路指導への満足度 生徒:76% 保護者:76% ③1/30に意見交換会実施、今後意見を改善に繋げる。 ④補習参加率は土曜補習5割、平日補習6割～9割。1・2年で補習定着。昨年度より参加者増。 ④オープンキャンパスへの参加は、1年生全員への情報の課題として実施。3年生の進学希望者はほぼ全員が参加。 ⑤就職希望者 学校幹旋希望者の内定者率:100%(12/22現在)	A	生徒の進路実現のために、各学年ごとの進路指導は充実しているが、3年間を通してのキャリア教育の計画が必要である。また、生徒に早い段階から具体的な将来目標を持たせるための仕掛けが必要である。
3	【現状】 全体的には、基本的生活習慣の大きな乱れはないが、時間厳守(遅刻者)や挨拶等まだ不十分である 【課題】 挨拶の励行、時間厳守等の基本的生活習慣を確立し、社会生活に関するルールやマナーを、家庭と連携し継続的に指導する必要がある。	・学校行事や部活動を通して基本的生活習慣を確立し、豊かな心を育成する。	①「チャイム トウ チャイム」を徹底し、時間厳守の大切さを教え、遅刻数を減少させる。 ②保護者と連携した交通安全指導(自転車マナー指導)の充実を図り、社会生活のマナーやルールの育成を図る。 ③魅力ある部活動を推進し、加入率や実績の向上を図る。 ④生徒会を中心とした、生徒の自主的な活動による学校行事の活性化を図る。 ⑤部活動等で地域の小・中学生との交流事業を実施し、豊かな心を育む。	①遅刻者数が減少したか。 ②保護者と連携した交通安全指導を実施したか。自転車マナーを守れているか。 ③部活動加入率が向上したか。部活動実績が向上したか。 ④学校行事への満足度が向上したか。 ⑤地域との交流事業の実施回数。参加者の満足度。	教職員の粘り強い指導により、基本的生活習慣の向上が見られた。 ①授業は「チャイム トウ チャイム」で実施している 肯定 生徒:84% 保護者:85% ①遅刻者(1日の平均人数) H28:31.8人→H29:26.8人 ②保護者と連携した交通安全指導:2回実施 登下校時の大きな自転車事故ゼロ ③部活動加入率:H28:77.3%→H29:69.5% 部活動実績:ラグビーユース日本代表選出 関東、全国選抜・7人制大会出場 ④学校行事充実度 肯定生徒:95% 保護者:92% ⑤地域との交流事業回数:13回	A	本校の将来を踏まえ、より一層生徒指導部を中心に、学校が一枚岩となって、基本的生活習慣の確立や交通安全指導、整容指導等の指導を行う必要がある。
4	【現状】 保護者、中学校、地域等への広報を工夫しているが、さらに学校理解度を高める必要がある。 【課題】 学校を積極的に公開、発信し本校の魅力をアピールし、生徒募集に結びつける必要がある。	・教育活動の情報発信を充実させる。	①学校評議員会、学校評価懇話会の充実を目指し内容と実施時期の検討をする。 ②アンケートの対象や実施方法を工夫し、学校内外の現状を広く把握・分析し新たな課題や改善策を検討し次年度に繋げる。 ③学校公開事業やホームページ、学校案内、ふかこう通信等を工夫し、中学校や地域住民等への情報発信を強化する。 ④中学校訪問を年2回実施し、中学との連携体制を発展させ、さらに信頼される学校づくりを行う。 ⑤学校から保護者へ効果的な情報発信を推進するため、「一斉配信メール」を導入する。	①実施内容と時期を検討し、その評価は良かったか。 ②アンケートを工夫し、広く情報収集・分析し新たな課題や改善策を検討したか ③学校公開来場者数、学校ホームページへのアクセス数、地域への情報発信回数、保護者・地域住民の満足度の向上。 ④本校志望生徒倍率1.10以上。 ⑤一斉配信メールのシステムが確立できたか。	開かれた学校づくりでは、新たなアンケート等で学校内外の意見を収集・分析することができた。 ①第1回で授業見学実施。第2回は複数候補日の提示で全員参加予定。 ②新たにアンケートを作成・実施・分析した。保護者の回収率98%、現状把握、課題分析は今後。 ③5回の学校説明会(内1回授業公開)に800名を超える中学生及び保護者が来場 ・学校ホームページアクセス数(1日平均) H28:1,009件→H29:1,095件 ・学校のことを保護者・地域の人に知らせている 肯定 生徒:75% 保護者:80% ④志願者倍率:H28:0.85→H29:0.74(12/15現在) ⑤1学期に一斉メール配信システムを確立した。	B	開かれた学校づくりの為に学校内の生徒や教職員、保護者に対するアンケートは行ったが、学校外の地域住民や中学生、その保護者等へのアンケートも必要と考える。

学校関係者評価
実施日 平成30年 2月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて、家庭学習を実施している割合が向上していることは大変良いことである。引き続き家庭学習時間の向上に向けて工夫・努力してほしい。 ・成績不振者は減っているが、優良者が増えていない。中間層の生徒に向上心や目標が無い為伸びていない。具体的な目標等を持たせる指導が必要ではないか。 ・深谷市では、看護師や栄養士が不足している。そのような情報を生徒に与え、関係大学や近隣の大学を見学や授業に参加させることも大切だと思う。 ・大学や専門学校等から深谷高校の2年生からオープンキャンパス等に関する資料請求が多くなったと聞いた。非常に良いことである。 ・卒業生の進路先一覧等の進路資料を1、2年に提供すると進路に対するモチベーションアップに繋がると思う。 ・1、2年時のロングホームルームで進路指導部が作成した進路の手引き用いて担任からの進路指導も必要だと思う。 ・規律や秩序が無いと教育は成り立たない。高校時代に基本的生活習慣を身に付けさせることは非常に大切なことである。学校全体で厳しく取り組んでもらいたい。 ・登校時に、先生からあいさつされてもあいさつができない生徒がいる。生徒から地域住民に対してもあいさつすれば深谷高校の印象もさらに良くなると思う。 ・雨の日の、自転車の傘さし運転や保護者に車での送迎が朝の登校時に危険なので指導して欲しい。 ・服装指導等は、入学時にしっかり行う事が大切だと思う。 ・今年度作成したアンケートは、質問項目が多岐にわたっており、全体が網羅されている。また、目標達成のための細かい策や計画、分析、評価もされており素晴らしい。 ・今後は、学校説明会や学校開放時に中学生やその保護者、地域住民からもアンケートを実施、分析し今後の学校経営に繋げることも必要では。